

第7回

モンタナ州の
恐竜化石調査徹底解説
～なぜモンタナへ？

Topic ①

モンタナ州は世界的な恐竜化石産地

ティラノサウルスとトリケラトプス。あまり恐竜に興味がない方も一度は聞いたことのある名前ではないでしょうか。ティラノサウルスは「暴君トカゲ」を意味する史上最強の肉食恐竜、そしてトリケラトプスは、「3本の角のある顔」という名のとおり、頭に立派な角の生えた草食恐竜です（写真1）。この2種類の恐竜は白亜紀の終わりに北アメリカに生息していた恐竜時代最後の生き物なのです。

モンタナ州には、白亜紀末の恐竜化石を産出するヘルクリーク層が広く分布していて、雨や雪によって侵食されたバッドランドと呼ばれる荒涼とした土地に、カラフルな縞模様として表れています。このように地層と化石がむき出しとなっている大地は、古生物学者にとっては夢のような場所なのです（写真2）。



▶写真3 アメリカモンタナ州リビングストーン近郊での発掘調査の様子。この露頭は1980年代に途中で発掘されていたが、調査が中断していた。

Topic ③

なぜモンタナへ？

私は、2018年から、ロッキー博物館の協力研究員として、モンタナでの野外調査に参加しています（写真4）。北アメリカで進化した恐竜たちのルーツはアジアにあったと考えられていますので、御船群島の恐竜も北アメリカの恐竜たちと無関係ではありません。この野外調査によって、御船の恐竜と関係するものが発見されれば、恐竜たちの進化や移動を知る手がかりとなるのです。

古生物学の研究は野外調査から始まります。野外調査を行わなければ、研究はもちろん、博物館での展示もできず、貴重な化石は自然に風化して壊れていってしまいます。

池上直樹の 恐竜

そうだったのか!!

- ▶最近、何かと話題となっている恐竜や博物館。
- ▶恐竜博物館の池上博士が最近の恐竜事情についてわかりやすく解説します。
- ▶モンタナ州での恐竜化石調査について詳しく紹介。



◀写真1 トリケラトプスとティラノサウルス（恐竜博物館常設展示室）。原標本はロッキー博物館所蔵。

▶写真2 アメリカモンタナ州のバッドランドの様子（マコシカ州立公園）。



Topic ②

採集しきれない化石

モンタナ州の恐竜化石研究の中心となっているのがモンタナ州立大学付属ロッキー博物館。モンタナ州の化石を収集し保存するという役割を担っていて、その活動は現在も続けられています。モンタナ州は冬が長く、雪に閉ざされるため、6月～8月の夏の限られた時期にしか野外調査を行うことができません。この間、博物館の職員はほとんど野外に出て、各地の地層の調査と化石の収集を行います。それでも、採集しきれないほど多くの化石が野外に残され、長い間発掘されるのを待っているのです（写真3）。



写真4 ロッキー博物館の野外調査クルー。学生が野外調査の経験を積むチャンスでもある。



▶新橋下の広場から稚アユを放流の様子。ここから放流された稚アユは平均体重11.2グラムで合計75キログラム。



御船川にあゆが放流されました！

4月3日昼に緑川漁業協同組合が、御船川に稚アユを放流しました。この放流は、緑川流域の環境保全や繁殖保護を目的に、同組合が毎年行っています。

今回は約97,800尾を緑川流域約6カ所で放流。稚アユの大きさは約6センチで、放流後は河口から上流へと上っていき、餌場の確保のため一定の縄張りをつくり成魚へと成長していきます。

アユ釣りの解禁日は6月1日目の予定です。釣行の際は漁協への問い合わせをお願いします。

5人の先哲のひとり林田能寛の遺徳をしのぶ

熊本県指定重要文化財の八勢目鑑橋（上野）。この橋は1855年（安政2年）、八勢目鑑橋がある八勢区の増本和男区長町「5人の先哲」のひとり林田能寛が私財を投じて完成させました。この偉業を後世に語り継ぐことを目的に、林田能寛顕彰会（竹内昭剛（しょうご）会長）が主催する林田能寛祭が毎年開催されています。今年は新型コロナウイルスの影響で、林田家墓地がある妙暁（みょうこう）寺（滝川）で供養のみ行われ、例年開催されていた、八勢目鑑橋での神事は行われませんでした。竹内会長は「林田先生の偉業には感謝している。このような形

でしか開催できなく申し訳ない」と述べ、八勢目鑑橋がある八勢区の増本和男区長は「地区の住民として感謝が尽きない。地区の高齢化が心配ではあるが、今後もこの偉業を伝え続けていきたい」と話しました。



▲増本区長（左）と竹内会長（右）



▲林田家の墓

新学期スタート 不安の中にも希望を



▶御船中学校の入学式で誓いの言葉を述べる新入生代表の清水馨仁さんと新入生の皆さん。校長先生は式辞で新入生、在校生に向けて「凡事徹底」「利他の心」という言葉を預け、学校生活を素晴らしいものとするため、一緒に頑張りましょうと話されました。



令和2年度を迎え、町内の小中学校で始業式や入学式がとり行われました。新型コロナウイルス感染予防のため、式の会場や規模を変更し、例年とは異なる様子ではありましたが、学校の再開を心待ちにしていた生徒の皆さんの明るい笑顔がありました。

◀小坂小学校の入学式（左3枚）



▼御船中学校の始業式。体育館ではなく、放送室から式辞を述べる作田校長と各教室で傾聴する生徒

